

## SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI)

### ケーススタディーガイドライン(仮訳)

SATOYAMA イニシアティブは、人為的影響を受けた自然環境（社会生態学的生産ランドスケープ）を改めて見直し、持続可能な形で保全・利用していくためにはどうすべきかを考え、行動しようという取り組みです。SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) は、生物多様性や人間の福利のために、社会生態学的生産ランドスケープの維持や再構築に取り組んでいる団体で構成され、情報共有や意見交換、協力活動などの多種多様な活動の場を提供するものです。

ケーススタディーや社会生態学的生産ランドスケープでの成功事例や知識等の情報を収集し IPSI メンバー間や政策決定者等の幅広い層で共有することで、多様な参加組織の経験から学び、社会生態学的生産ランドスケープの重要性に対する理解の促進が期待できます。

当文書は IPSI ケーススタディー作成の際のガイドラインとなりますが、質問・コメント、もしくは改善についてのご提案がありましたら [isi@ias.unu.edu](mailto:isi@ias.unu.edu) までご連絡ください。

### IPSI ケーススタディーとは？

SATOYAMA イニシアティブは、人と自然の良好な関係が構築されている社会の実現を目指し、世界的なレベルで進行する生物多様性の損失を減速させ、あわせて社会生態学的生産ランドスケープでの生物多様性の維持・向上及び持続可能な自然資源利用の促進といった二重の効果を期待しています。また、各組織間に相乗効果や補完的關係の醸成すること、各組織の資源の最大化、それぞれの活動の相互強化も IPSI の成果として期待されています。

そのため、ご提出いただくケーススタディーは以下項目のうち、少なくとも以下のうち 1 点を考慮したものとします<sup>1</sup>。

- 生物多様性と人間の福利または人と自然の長期的な相互作用を促す、他の地域やプロジェクトでも活用できる有効なアプローチに関する情報
- 各 IPSI メンバーの活動間に相乗効果をもたらすツールやガイドライン

---

<sup>1</sup> ケーススタディーの収集・共有は(1)多様な生態系のサービスと価値の確保のための知恵の結集(2)革新を促進するための伝統知識と近代科学の融合(3)伝統的な地域の土地所有・管理形態を尊重した上での新たな共同管理のありかたの探求という SATOYAMA イニシアティブの 3 つの行動指針則して始まった。

したがって、ケーススタディーはすべてこの 3 つの行動指針を踏まえ、行動指針に則した各地域の SEPL の管理・再生にあたっては、(1)環境容量・自然復元力の範囲内での利用(2)自然資源の循環利用(3)地域の伝統・文化の価値と重要性の認識(4)多様な主体の参加と協同による自然資源と生態系サービスの持続可能で多機能な管理(5)貧困削減、食糧安全保障、生計維持、地域コミュニティのエンパワーメントを含む持続可能な社会への貢献、という 5 つの生態学・社会経済学的視点が重要であると考えられます。

## ケーススタディーの様式

ケーススタディーは上述の収集目的に合うものとし、可能な限り以下の項目を含むこととする。ただし、この項目のみに限定されるものではない。

### 1. 生物多様性と人間の福利または人と自然の長期的な相互作用を促す、他の地域やプロジェクトでも活用可能な有用アプローチに関する情報

報告書、文書、研究報告書などの成果物で、以下のテーマに関係するもの（ア）生物多様性や社会経済活動（イ）自然と人間の活動の相互関係により創出された持続可能な伝統的景観（ウ）地域に適した成功事例や優良な実践例、他地域・プロジェクトでも活用できる社会生態学的生産ランドスケープの情報および教訓

### 2. 各 IPSI メンバーの活動間に相乗効果をもたらすツールやガイドライン

報告書、文書その他戦略計画、政策策定文書、教材、ガイドライン、マニュアルなどの成果物で、IPSI メンバーにとって有用となるような以下のテーマに関係するもの（ア）国、地域、各分野の開発計画、優先事項、持続可能な利用のための政策的枠組みに生物多様性の問題を統合・整理する際に有効なアプローチ（イ）長期予算策定やプロジェクト地域の適応資金の調達の際に有効なアプローチ（ウ）生物多様性・脆弱性や人間の福利への影響、リスクや機会等の政策決定に携わる政府関係者や意思決定者等を対象とする、もしくは地域社会の研修や能力開発、意識向上等のようなテーマに関する文書

## 原稿作成ガイドライン

可能な限り、以下項目の情報を提出してください。（\*印の事項は必須項目になります）

\*題名：対象について分かりやすく簡潔に記載（約 10 ワード）

著者：著者名とプロフィール（約 50 ワード）

\*組織名称：提出機関または実施機関名

\*概要：英文（約 200 ワード）

\*テーマ：森林、農地、草地、陸水、沿岸、都市郊外、その他、の内少なくとも 1 つの分野からテーマを選んで明示してください。

\*キーワード：3～5 のキーワードを明記してください。

地図：正確な場所を定時（緯度経度もしくは Google Map のリンク）

\*本文：2000 ワード～4000 ワード

参考文献：参照および参考文献リスト

図表、写真：図表や写真は本文中に引用のこと

ウェブサイトへのリンク：組織やプロジェクトのウェブサイトへのリンク

推薦文献：ケーススタディに関連する推薦文書リスト

## 本文のフォーマット

マイクロソフト・ワード文書形式：1文書に図表、写真（含キャプション）を含む全データをまとめる。フォントは Times New Roman で大きさは 11 とする。余白は上 3.5cm、下および左右 3cm。1 ページ当たりの行数は 40 行、右下にページ番号をふること。

JPEG ファイル：図および写真は個別に JPEG 形式のファイルとして提出すること。サイズは幅 550 ピクセルとする（高さは元の比率を保持する形で自動的に設定されるもので可）

## 言語

ケーススタディーは英語・西語・仏語のいずれかの言語で記述するものとします（西語・仏語の場合は英文のサマリーを添付）。事務局が分析の対象とするケーススタディは英文のものが中心になります。

英語を母国語としない筆者がケーススタディーを執筆した場合、提出前に英語に堪能な第三者の校正をかけるてください。

本文は分かりやすい言葉と明確な文章で記述するものとするため、専門家ではない読者にとって難解な専門用語・文章には解説を付けてください。

## 著作権

IPSI 事務局に提出されたケーススタディーの文章全体もしくは一部について、筆者はこれ以外の目的、出版への利用を制限されるものではありませんが、必要に応じて IPSI 事務局は筆者の合意を得ずに、SATOYAMA イニシアティブに関する活動のために出典を明記したうえで本文データの全体もしくは一部を利用することがあります（他言語への翻訳を含む）

本文中に著作権で保護されている部分がある場合、その利用に関する許可取得および著作権を明示する責任は当該ケーススタディーの筆者にあるものとします。

各ケーススタディーの著者においては、SATOYAMA イニシアティブのウェブサイトのコンテンツに適用される著作権の実施許諾契約 (<http://creativecommons.org/licenses/>) に必ず目を通してください。

## その他

提出原稿はすべて事務局がレビューを行います。各筆者は、原稿の構成や表現について、事務局の編集者から変更依頼を受ける可能性があることをご了承ください。